



エンデューロへの再挑戦 熱き男が大地を駆ける

澤木千敏さん

飽くなき努力の先に

自然の地形を生かした全長数十キロにも及ぶダートコースを疾走するライダー。それが澤木千敏さんだ。

澤木さんは両親の影響で5歳からバイクを始めた。16歳で初めてレースに出場し見事優勝、バイクを始めた時から「どうせやるなら一番がいい」という気持ちは変わらないう。20歳からは「全日本チャンピオン」を目標に惜しまぬ努力を続けてきた。「人と同じことをやっても絶対に勝てない。仕事があり練習時間は限られていても、常に工夫し誰よりも内容の濃い練習をした」とバイクに掛ける情熱を語った。

挑み続けることへの葛藤

「努力はうそをつかない」と話す澤木さんは、限界まで自分を追い込んだ。厳しい練習を積み重ね迎えた2006年、ついに全日本チャンピオンの栄冠を獲得。「優勝できたのは妻のおかげ。全力のサポートに結果で応えたかった」と感謝の念を抱く。

しかし、チャンピオンとなった翌年以降は、心のど

こかに喪失感があったという。「一度頂点を見ると、モチベーションを保つことが難しい」と葛藤した時期もあった。2011年には半月板を損傷。手術台で麻酔が効くと、とてつもない恐怖を感じた。「こんなに怖い思いをするならバイクをやめようと思った。でも気付けば乗っていた」と笑顔で話す。その後、周囲から惜しまれつつも第一線から引退。しかし、バイクから離れてみると何をやっても満足できなかった。

ライダー澤木の復活

レースから離れた生活を送っていたが2014年、「わが子に活躍している姿を見たい」とレースへ復帰。「チャンピオンは昔の話。今すごい人が一番すごいと思う。その姿を子どもに見せたい」と熱い思いを語る。「勝つためにどうしたらいいか考えることが楽しい」と笑顔で語る澤木さんは、復活後わずか2戦目で優勝を果たした。

「レースに出るからには絶対に負けたくない」と話す澤木さん。今後もベテランライダーの活躍に期待したい。

PROFILE

さわき ちとし(白羽区出身・36)
市内のモータースで働きながら、日曜日は林道などの未舗装の道を長時間走る技術と体力を競うバイクレース「エンデューロ」に出場している。